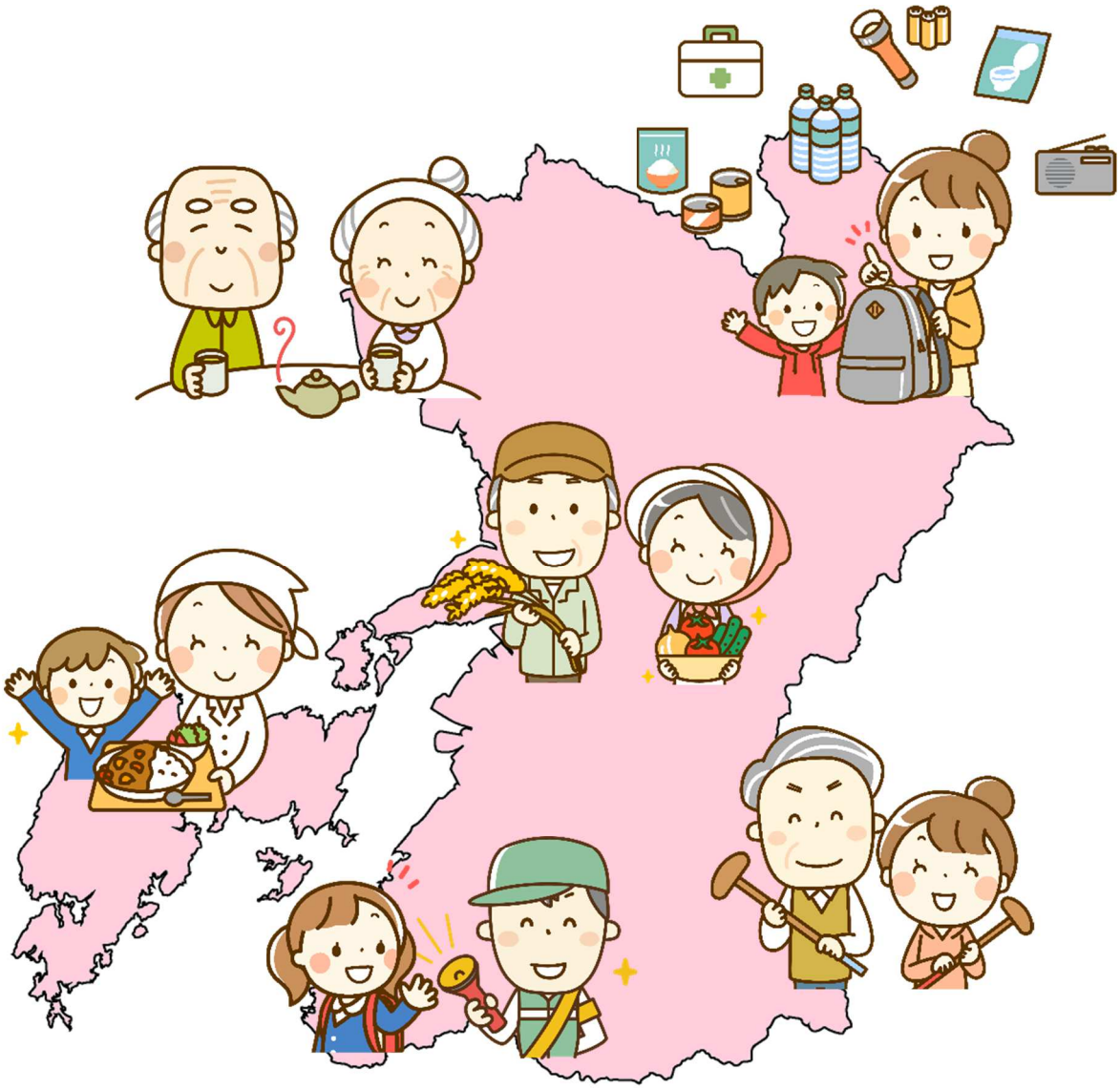
住民主体による地域活動事例集

～人と人がつながる被災地域の支え合い～



熊本県・社会福祉法人熊本県社会福祉協議会（令和２年３月作成）

目　次

＜地域活動の事例＞

No.１　宇土市　上松山子ども食堂……P２
（①集いの場、⑥地域のイベント）

No.２　宇城市　御領五区自治会活動……P４
（①集いの場、③防犯・防災活動、⑥地域のイベント）

No.３　阿蘇市　ふれあいサロン遊中会……P６
（①集いの場、⑤移動・送迎支援）

No.４　阿蘇市　赤水区ネットワーク連絡会……P８
（①集いの場、②見守り活動、④困りごと・生活相談）

No.５　阿蘇市　下西黒川おなじみ会……P10
（①集いの場、⑦その他の活動）

No.６　美里町　くすのき平仮設団地　あつまろ会……P12
（①集いの場）

No.７　大津町　中島区みんなの避難計画……P14
（③防犯・防災活動）

No.８　大津町　大津小学校子ども防災士活動……P16
（③防犯・防災活動）

No.９　菊陽町　みんなの家の会……P18
（①集いの場）

No.10　御船町　上田代ばぁば会……P20
（①集いの場、②見守り活動、⑦その他の活動）

No.11　益城町　馬水東道仮設住宅お誕生日交流会……P22
（①集いの場、⑥地域のイベント）

No.12　甲佐町　龍野地区防犯パトロール隊……P24
（②見守り活動、③防犯・防災活動）

No.13　山都町　地域でつくる明日への支え合い、見守り活動……P26
（①集いの場、③防犯・防災活動、④困りごと・生活相談）

No. １

食を通じた子どもの居場所づくり

１　活動の概要

活動名	上松山子ども食堂
対象地域	宇土市上松山
運営主体	上松山いきいきサロン、生活学校
活動の種類	①集いの場　②見守り活動　③防犯・防災活動 ④困りごと・生活相談　⑤移動・送迎支援 ⑥地域のイベント　⑦その他（　　）
活動日時	令和元年１０月、令和２年１月に実施。今後は検討中
活動場所	上松山コミュニティセンター
参加費	無料
対象者	上松山地域住民、近隣地域の住民
協力団体	自治会、婦人会、宇土市社会福祉協議会、 デイサービスたんぽぽの家
運営財源	フードドライブ、 共同募金（ボラサポ九州：住民支え合い助成）
備考	

２ 活動を始めたきっかけ

宇土市生活学校では、これまでレジ袋削減や食品ロス削減の活動等に取り組んできた。現在、８０～９０歳前後の上松山いきいきサロンメンバーが主で活動を実施。

活動についてメンバーから「一人っ子やひとり親世帯が増える中で、子どもが安心して遊べる場所を作りたい」との意見があった。　地域の民生委員に相談したところ、社協の紹介があり、子ども食堂の開催へとつながった。

３ 活動の内容

・子ども食堂

①令和元年１０月２１日（約４０名が参加）
婦人会に協力いただき、カレーのふるまいと、紙芝居などを実施

②令和２年１月２５日（約８０名が参加）
婦人会、自治会、福祉施設、ボランティア等の協力により、にゅうめん、巻き寿司、お菓子作り、生け花、メッセージカードづくりなどを実施

４ 特徴やポイント

・フードドライブの実施

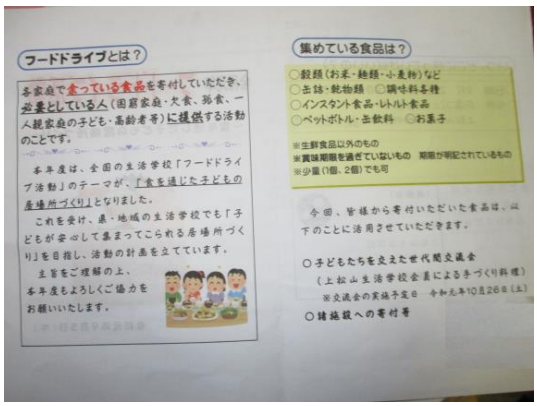
食品ロス削減も１つのテーマであり、フードドライブのチラシを作成。フードドライブについて理解を図るとともに、協力を呼びかけた。その結果、お米や野菜、ソーメン、のりなど、多くの食品を提供いただいた。

・市社協との協力

子ども達（学校）への周知や、助成金申請の手続き等に協力があった。

・地域の事業所との連携

地域の福祉施設から食品提供や器具の貸し出し等の協力があった。



５ 課題（現在と今後）

・人が集まる機会があることが大切。今後の活動についても検討中。

６ 問い合わせ

宇土市社会福祉協議会　☎０９６４－２３－３７５６

No. ２

地域の皆が気軽に集える場づくり

１　活動の概要

活動名	宇城市不知火町　御領五区自治会活動
対象地域	宇城市不知火町御領五区内
運営主体	御領五区自治会（自治会・福祉会、自主防災会）
活動の種類	①集いの場　②見守り活動　③防犯・防災活動 ④困りごと・生活相談　⑤移動・送迎支援 ⑥地域のイベント　⑦その他（　　）
活動日時	福祉会サロン（趣味の会）２～３回／週 認知症カフェ１回／月（１００円／１回） 季節ごとの行事（ふれあいスポーツ、納涼祭りなど） 防災訓練１回／年（４月頃）
活動場所	御領五区公民館、グラウンド、児童公園
参加費	活動内容により実費（数百円）がかかる場合も有り
対象者	地域住民（どんどや等は、地区外からも参加可能）
協力団体	自治会、宇城市社会福祉協議会、行政、警察署、消防署、熊本南病院、あおば病院など
運営財源	自治会費（各会に予算化） 共同募金（ボラサポ九州：住民支え合い助成）など活用
備考	病院から、講話や運動の講師を無償で協力

２ 活動を始めたきっかけ

御領五区は、現在、約３３０世帯７４０人が居住している。アパート等も多くあり、新たに転入する世帯も多い。以前は、子ども会や敬老会、地域行事も活発だったが、次第に参加者が減少している。

そのため、新たなイベントやサロンなども実施し、新しい世帯には積極的に声掛けをするなど、話しやすい、参加しやすい地域づくりに取り組んでいる。地区内に仮設住宅や災害公営住宅が建設されており、入居された当初から地域行事への参加の案内なども実施している。

３ 活動の内容

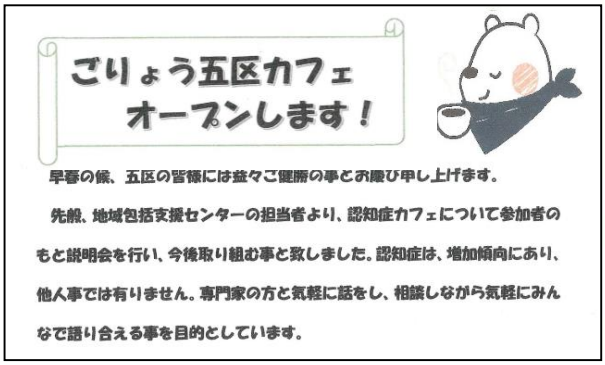
・季節の行事…どんどや、スポーツ大会・花見、納涼祭り、敬老会など
・児童公園の清掃（３月～１１月）
・認知症カフェ（月１回）…あおば病院に協力いただきミニ講話を実施
・徘徊者捜索・声かけ模擬訓練（年１回）
・防災訓練（年１回）
・一人暮らし高齢者のつどい（年１回）…食事会、ゲーム、出し物など
・福祉会サロン
　民謡舞踊の会(毎週月曜)、釣りクラブ(第２土曜)、睦会(第３月曜)、卓球クラブ(毎週月･木曜)、グラウンドゴルフ(毎週火･木･土曜)、百歳体操(毎週水曜)、共同菜園　など

４ 特徴やポイント

・清掃活動は、自由参加。約６０名前後が参加している(防災無線で案内)。
・地域行事の参加者が増加。現在約１６０名～２００名が参加している（地域外の子ども達も希望があれば、参加可能)。
・徘徊捜索・声掛け模擬訓練は、マニュアルを作成し平成３０年より実施。２地域に分かれて、役割分担を行い実施。令和２年以降も継続予定。

５ 課題（現在と今後）

・後継者の育成と活動の継続
・アパート等の住民との交流
　（入れ替わりも多く、把握が難しい）



６ 問い合わせ

宇城市社会福祉協議会　☎０９６４－３２－１３１６

No. ３

いつまでも健康で長生きを目指して！

１　活動の概要

活動名	ふれあいサロン遊中会（ゆうちゅうかい）
対象地域	阿蘇市波野　遊雀区（ゆうじゃく）・中道区（なかみち）
運営主体	遊中会（老人会）
活動の種類	①集いの場　②見守り活動　③防犯・防災活動 ④困りごと・生活相談　⑤移動・送迎支援 ⑥地域のイベント　⑦その他（　　）
活動日時	毎週水曜日にグランドゴルフを実施 その他、季節行事などを定期的に開催
活動場所	波野屋内ゲートボール場
参加費	サロン（グランドゴルフ）参加費…１００円 ※運転が困難な方については、乗り合いで送迎を実施 （ガソリン代として１００円を徴収）
対象者	遊雀区、中道区の老人会加入者（６５歳以上）
協力団体	行政、阿蘇市社会福祉協議会
運営財源	サロン参加費、 ふれあいサロン活動助成金（阿蘇市）
備考	

２ 活動を始めたきっかけ

「高齢化社会を皆で仲よく、愉快に楽しく、健康で長生きすること」を目的に、地域の老人会の活動として実施。

遊中会（遊雀区と中道区合同の老人会）は、数十年前からサロン活動等に取り組んでおり、会員は２０名（男性６名、女性１４名）。昔は、もっと多くの人が参加していたが、高齢や病気等により少しずつ減少している。

現在は、平均すると毎回１５名程度が参加している。

３ 活動の内容

・健康づくり…毎週水曜の午前中にグラウンドゴルフを実施
・季節行事…花見会（５月）、シルバースポーツ大会（９月）
・交通安全教室…一の宮警察署から来ていただき講話を実施
・研修会（総会、新年会、忘年会）…近隣の温泉で懇親会も兼ねて実施
・地域行事への協力

４ 特徴やポイント

・グラウンドゴルフを毎週実施しており、８ホールを４ラウンド行っている。
・参加費（１００円）で景品を購入し、参加賞やニアピン賞などを提供。
・毎週寄り合うことで、顔を合わせる場や、情報交換の場となっている。
・スポーツを通じて交流することで、男性の参加者も交じりやすい。
・乗り合わせによる移動支援（ガソリン代１００円を徴収）も行っている。

５ 課題（現在と今後）

・仕事をしている方も多く、６０代等の若い世代の参加が難しい。
・８０代や９０代の方もいるため、体調不良等で参加できなくなる方もいる。

６ 問い合わせ

阿蘇市社会福祉協議会　☎０９６７－３２－１１２７

No. ４

地区組織の連携によるネットワーク

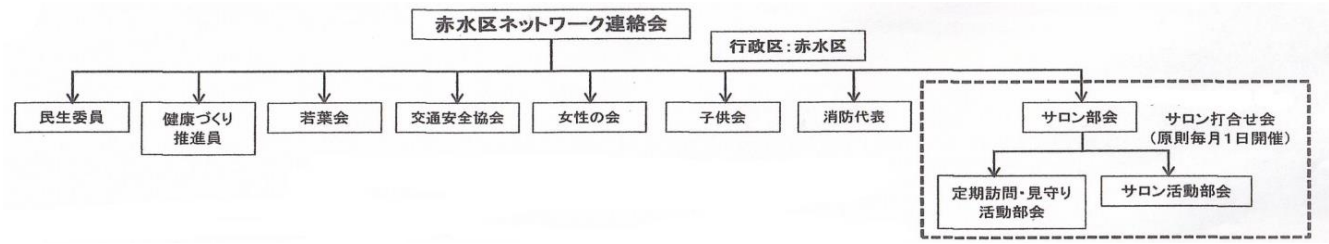
１　活動の概要

活動名	赤水区ネットワーク連絡会（あかみず）
対象地域	阿蘇市赤水区
運営主体	赤水区自治会
活動の種類	①集いの場　②見守り活動　③防犯・防災活動 ④困りごと・生活相談　⑤移動・送迎支援 ⑥地域のイベント　⑦その他（　　）
活動日時	年間の活動計画を立てて実施
活動場所	赤水公民館
参加費	サロン活動等の参加費は無料
対象者	赤水区住民
協力団体	赤水区の各組織団体、行政、阿蘇市社会福祉協議会、 赤水地区ボランティアグループ
運営財源	ふれあいサロン活動助成金（阿蘇市） 阿蘇市やまびこネットワーク活動助成金（阿蘇市社協）
備考	

２ 活動を始めたきっかけ

１０年程前から阿蘇市社協で取り組んでいるやまびこネットワークをもとに、「赤水地区連絡会」を組織化。平成３０年度、新たにサロン部会を立ち上げ、「赤水区ネットワーク連絡会」を体系化した。

現在、各地区組織合同でサロン部会の打ち合わせを毎月開催し、課題の検討や行事の確認等を実施している。



３ 活動の内容

実施月	グラウンドゴルフ	若葉会	女性の会	ウォーキング	食生活改善協議会
4月	11日，18日 （13:00～）			（軽食）	
5月	9日，16日 （9:00～）	例会（15日）			
6月	13日，20日 （9:00～）	例会（15日）	（災害非常食）		
7月	11日，18日 （9:00～）	例会（15日）			
8月	8日，15日 （9:00～）	蛇石神社神事祭（1日）			
9月	12日，19日 （9:00～）	敬老祝賀会（9日）	（敬老祝賀会）		
10月	10日，17日 （9:00～）	シルバースポーツ大会		（軽食）	
11月	7日，14日 （9:00～）	例会（16日）			（健康食）
12月	12日，19日 （13:00～）	例会（15日）			
1月	9日，16日 （13:00～）	新年会			
2月	13日，20日 （13:00～）	例会（15 日）	（食事）		
3月	13日，20日 （13:00～）	総会			

・見守り活動…隣保組長、福祉協力員、民生委員が連携して、それぞれ月１回ずつ(計３回)の見守り・安否確認訪問を実施。

４ 特徴やポイント

・前区長がサロン部会のリーダー、前々区長が若葉会（老人会）のリーダーを務めているため、地区組織間の連携が行いやすい。
・ネットワーク組織により、課題の共有や活動状況の把握が図りやすい。
・課題対応については、ボランティアグループと協力し実施している。

５ 課題（現在と今後）

・一人暮らしの高齢者も多く、緊急時の対応などの心配がある。

６ 問い合わせ

阿蘇市社会福祉協議会　☎０９６７－３２－１１２７

No. ５

地域で協力してサロン活動などを運営

１　活動の概要

活動名	下西黒川（しもにしくろかわ）　おなじみ会
対象地域	阿蘇市下西黒川地区
運営主体	下西黒川老人会
活動の種類	①集いの場　②見守り活動　③防犯・防災活動 ④困りごと・生活相談　⑤移動・送迎支援 ⑥地域のイベント　⑦その他（　環境美化活動　）
活動日時	毎週水曜日１０：００～
活動場所	下西黒川公民館、ゲートボール場
参加費	無料
対象者	下西黒川地区の方
協力団体	行政、阿蘇市社会福祉協議会、自治会
運営財源	ふれあいサロン活動助成金（阿蘇市）
備考	

２ 活動を始めたきっかけ

地域の老人会として、サロンは十数年前から実施。「おなじみ会」の名称は、先代の会長が名付けられた。

現在では、平均で毎回１５名程度が参加しており、多い時には約２０名が参加。介護予防・生活支援サービス事業の通所型サービスＢ※も実施。サロン活動は、６５歳以上を対象としているが、対象年齢でない方も受け入れている。

※通所型サービスＢ：住民主体で通いの場を設け、体操、運動等の活動を行うサービス

３ 活動の内容

・サロン（毎週水曜）…健康体操や認知症予防トレーニング等を実施
・定例会（毎月１回開催）
・グラウンドゴルフ（毎週開催）
・環境美化活動…公民館の掃除や除草作業などを定期的に実施

４ 特徴やポイント

・会食の時には、サロンを欠席した方へも配食を兼ねて見守りを実施。
・サロン終了後も参加者同士の情報交換の場となっている。
・継続的に実施することで、高齢になっても運動機能が向上している。
・地域の方がボランティアでサロンの講師などを担っている。

５ 課題（現在と今後）

・７０歳前後の方は、仕事をしている方も多く、参加が少ない。また、男性の参加者が少ない。
・美化活動を現在老人会として行っているが、今後継続できるか不安がある。
・地域の高齢化が進んでおり、今後、買い物や移動支援などが課題。

６ 問い合わせ

阿蘇市社会福祉協議会　☎０９６７－３２－１１２７

No. ６

仮設住宅のみんなが集まる場づくりを

１　活動の概要

活動名	くすのき平（だいら）仮設団地　あつまろ会
対象地域	美里町くすのき平仮設団地
運営主体	くすのき平仮設団地住民グループ
活動の種類	①集いの場　②見守り活動　③防犯・防災活動 ④困りごと・生活相談　⑤移動・送迎支援 ⑥地域のイベント　⑦その他（　　）
活動日時	毎月第３水曜日
活動場所	くすのき平仮設団地　みんなの家
参加費	無料（内容により一部徴収）
対象者	くすのき平仮設団地の入居者及び元入居者
協力団体	美里町地域支え合いセンター、熊本県作業療法士会 他
運営財源	実費が必要な場合は、参加者が負担
備考	

２ 活動を始めたきっかけ

平成２８年１０月にくすのき平仮設団地が完成し入居が開始。当初、集会所が無く、住民が集まる場所がなかったが、平成２９年８月に日本財団みんなの家が建設された。

集会所ができたため、仮設団地入居者の集まる場として活用を実施。美里町地域支え合いセンターや熊本県作業療法士会の協力のもと、毎月あつまろ会を開催している。

仮設住宅の戸数も少ない（１５戸）ため、参加者は毎回５名程度が参加。

３ 活動の内容

・作業療法士会から提供されたＤＶＤを見ながらの体操
・その他、季節の行事やレクリエーションなど（かるた、黒ひげ危機一髪、オセロ、絵手紙、俳句、輪投げ、門松づくり、クリスマス飾り等）

４ 特徴やポイント

・仮設から退去された方も参加可能。
・活動終了後も、住民だけ残って女子会や意見交換会が続いている。
・運転が困難な方については、地域支え合いセンターで移動支援を実施。

５ 課題（現在と今後）

・３月末で仮設団地住民が全て退去するため、あつまろ会も終了の予定。仮設に残っている方からは、「入居している間は継続してほしい」との要望もある。
・仮設団地を退去された世帯で運転が困難な方などは、参加が難しい。

６ 問い合わせ

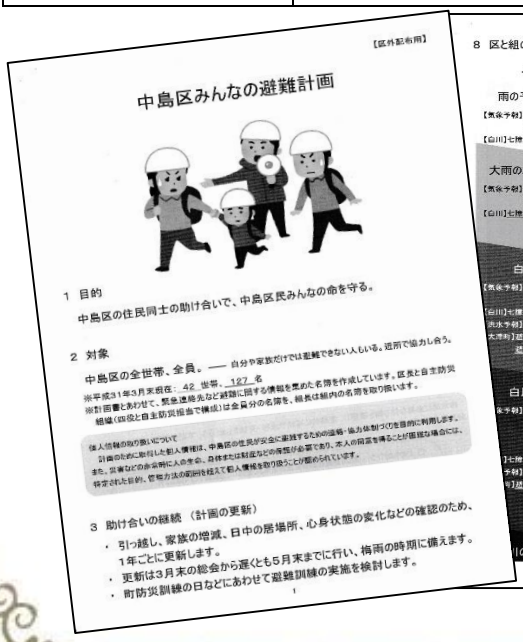
美里町地域支え合いセンター　☎０９６４－４７－０８７７

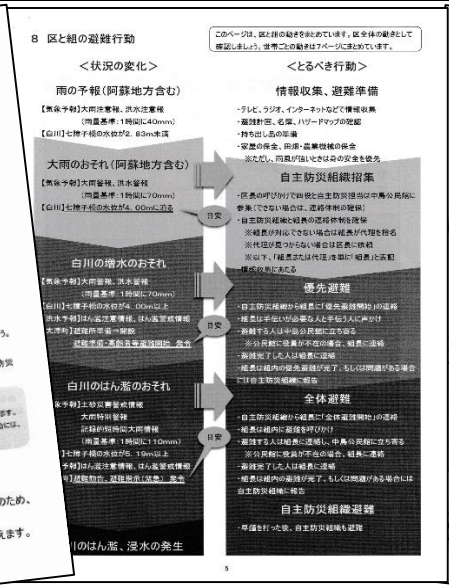
No. 7

地域でつくるみんなの避難計画

1 活動の概要

活動名	中島区みんなの避難計画
対象地域	大津町中島区
運営主体	中島区自治会
活動の種類	①集いの場　②見守り活動　③防犯・防災活動 ④困りごと・生活相談　⑤移動・送迎支援 ⑥地域のイベント　⑦その他（　　）
活動日時	年１回防災訓練を実施 役員会で、定期的に避難計画の見直しを実施
対象者	中島区住民
協力団体	大津町社会福祉協議会、行政
運営財源	自治会費





２ 活動を始めたきっかけ

中島区は、白川流域沿いにあり、昔から水害の危険性が高い地域だった。住民も毎年のように水害を心配していた。熊本地震後、行政より災害時避難行動要支援者名簿が区に配布されたが、名簿の活用方法について悩んでいた。町社協に相談したところ、避難訓練に活用してはどうかとの提案があり、役員会で説明。役員の同意もあり、役員会の時に話し合いを開始。熊本地震を振り返り、地区の避難計画を作成することになった。平成３０年度に１年をかけて「中島区みんなの避難計画」を作成した。

３ 活動の内容

・中島区みんなの避難計画を作成（避難の判断基準や避難方法の手順、避難所情報、連絡先一覧、各組の住民名簿など、住民に承諾を得て掲載）
・避難計画の定期的な見直し（年１回総会時に実施）
・避難計画を用いた避難訓練の実施（年１回実施）

４ 特徴やポイント

・誰が、どこに、どのように避難するかを確認し、名簿に掲載している。
・避難計画を全世帯に配布及び避難所に設置し、区全員で共有。
（各世帯には、各組の情報を配布。役員向けには全情報を掲載し配布）
・個別の要支援者情報の共有…特に支援が必要な方については、本人の了解のもと、地域住民に情報を共有。
（例：聴覚障がいの方⇒避難警告の呼びかけや防災放送が聞こえない など）
・白川の危険水域の目盛表示についても、町に相談し表示の変更を実施。

５ 課題（現在と今後）

・住民間で完全合意が出来ているわけではない（個人情報の問題）
・避難計画を活かす（作成して終わりにせず、継続的に活用していく）
・状況に合わせて避難計画の定期的な見直し・修正を実施していく

６ 問い合わせ

大津町社会福祉協議会　☎０９６－２９３－２０２７

No. ８

未来の地域防災リーダーの育成

１　活動の概要

活動名	大津小学校　子ども防災士活動
対象地域	大津町
運営主体	大津小学校　子ども防災士活動運営会
活動の種類	①集いの場　②見守り活動　③防犯・防災活動 ④困りごと・生活相談　⑤移動・送迎支援 ⑥地域のイベント　⑦その他（　　）
活動日時	学校の時間外で月１回実施
活動場所	大津町 他
参加費	無料（各世帯で防災バッグ等の準備を実施）
対象者	大津小学校４年生～６年生の有志
協力団体	大津小学校、大津町の防災士の方
運営財源	小学校の震災関連予算、アクサユネスコ協会減災教育プログラム助成金（令和元年度のみ）
備考	

２ 活動を始めたきっかけ

平成２９年度、県教育委員会より、各校に防災主任の設置が義務付けられた。防災主任の役割の一つとして、防災教育や地域・関係機関との連携が掲げられており、災害時に学校が避難所となる事も想定し、地域との連携に取り組むこととなった。もともと、学校と防災士の方々との関わりがあったため、平成２９年度に子ども防災士活動運営会を立ち上げ、学校と防災士と連携して、学校時間外で活動を実施していくこととなった。

初年度は、各プログラムで希望者を募り開催。平成３０年度以降は、通年プログラムとして募集。令和元年度は、１２名が参加している。

３ 活動の内容

・水消火器訓練…使い方について体験学習を実施。後日、火災避難訓練の際に消火係や使い方の発表報告を行った。
・ロープの結び方や台風対策の学習会
・防災バッグの準備…各自で防災用品を準備し確認を実施。
・防災フィールドワーク（地域の防災体制の確認）
・避難所運営ラーニング（ＨＵＧ）
・復興見学学習会…南阿蘇村の被災状況を見学。また、西原村や宮城県気仙沼市の子ども達との意見交換会も併せて行った。

４ 特徴やポイント

・前年に引き続き参加する児童もいるため、防災意識が高くなっている。
・経験者が新規参加者に実施方法を指導するなど、人材育成を行っている。
・参加者の意識が、次第に地域や他者との交流を考えるようになっている。

５ 課題（現在と今後）

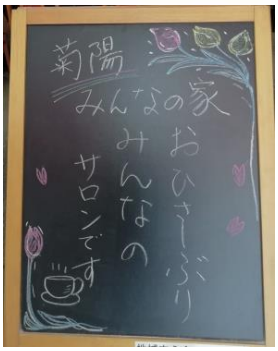
・子ども防災士活動の財源確保
・地域の防災活動等との連携

６ 問い合わせ

大津小学校　☎０９６－２９３－２０６５

No. ９

仮設住宅を退去しても
みんなで一緒に集まりたい



１　活動の概要

活動名	みんなの家の会
対象地域	菊陽町
運営主体	菊陽町の元仮設住宅の住民グループ
活動の種類	①集いの場　②見守り活動　③防犯・防災活動 ④困りごと・生活相談　⑤移動・送迎支援 ⑥地域のイベント　⑦その他（　　）
活動日時	毎月第２木曜日　１０：３０～
活動場所	ほっとステーション武蔵ヶ丘（地域の縁がわ事業）
参加費	無料（食べ物などは、持ち寄り）
対象者	菊陽町の元仮設住宅の入居者
協力団体	武蔵ヶ丘ショッピングセンター商店街、 菊陽町社会福祉協議会、ボランティア
運営財源	場所は、菊陽町社会福祉協議会が実施する地域の縁がわ「ほっとステーション武蔵ヶ丘」を提供
備考	

２ 活動を始めたきっかけ

熊本地震後、光の森仮設団地では、地域支え合いセンターによるサロン活動が週２回行われていた。平成３１年２月頃から、今後地域支え合いセンターが閉鎖した際に、サロン活動をどうするかということについて、参加者と話し合いを継続的に実施。その中で、「熊本地震で同じ経験をした人達と集まりたい」「退去した後も集まれる場所を作りたい」との意見で一致した。

場所や運営についても、話し合いで検討を行った。場所は、町社協より提供があり、運営は、参加者で話し合って決めていくことになった。

３ 活動の内容

・集いの場、おしゃべり会

仮設住宅にいた人達が集まり、自由に話をする場を作ることを目的に実施。

参加者は、現在３～６人程度。自身の近況や、仮設で一緒だった方々の情報交換などを行っている。

食べ物は持ち寄りで参加。

４ 特徴やポイント

・仮設住宅の頃から関わっているボランティアの方も、継続的に参加。
・同じ経験をした人達が、気軽に寄れるところ。（元菊陽町民や、被災し転居により菊陽町に引っ越した方なども参加可能）

５ 課題（現在と今後）

・できる限り、この場（集まり気軽に話せる場）を続けていきたい。

６ 問い合わせ

菊陽町社会福祉協議会　☎０９６－３３７－６８３０

No. 10

地域を支える拠り所と生きがいづくり

1　活動の概要

活動名	上田代ばぁば会
対象地域	御船町田代上田代地域
運営主体	上田代ばぁば会（上田代地域の女性グループ）
活動の種類	①集いの場　②見守り活動　③防犯・防災活動 ④困りごと・生活相談　⑤移動・送迎支援 ⑥地域のイベント　⑦その他（買い物支援(配達)）
活動日時	火曜日～日曜日１０:００～１５:００（※月曜が定休日）
活動場所	上田代えがおのお店「笑福」
参加費	無料（商店として運営）
対象者	上田代地域の住民
協力団体	地域住民、御船町社会福祉協議会
運営財源	県のくまもと里モンプロジェクトによる助成金や寄付金、支度金を元手に事業を開始。現在は、売上利益が運営。
備考	

２ 活動を始めたきっかけ

数年前に上田代地域にあった店が閉店。買い物は、中心地まで行かなければならない状況であり、１／３以上が高齢者世帯である上田代地域においては、深刻な問題だった。

そこで、地域の女性の中で「宅配サービスとか、何かやろうか？」ということになり、各地域の女性１０人に声掛けし、「ばぁば会」を結成。平成２７年からくまもと里モンプロジェクトを利用し、準備を行い、平成２８年にお店「笑福」をオープンした。

３ 活動の内容

・地域の商店…とれたて野菜、手作り弁当、食材、日用品などを販売
・買い物支援…買い物に来店が困難な方には、電話注文、配送も実施
・集いの場…作業着でも気軽に立ち寄り、お茶を飲み、おしゃべりできる場
・安否確認…日頃お店に来る方が来ないと、心配になり様子を確認している

４ 特徴やポイント

・現在お店を運営しているのは、７０歳代の女性５名のメンバーで実施。
・仕入れや販売などお店を運営しながら、住民の集いの場も兼ねている。
・ここが自分達の生きがいにもなっている。

５ 課題（現在と今後）

・継続の財源確保…現在は黒字だが、プレハブのレンタル料（年２０万）などが毎年必要。
・集いの場の発展…店舗だけでは手狭なため、隣家を活用してもっと多くの方が集える場を作りたい。
・食品加工場の問題…吉無田にあるため、冬場は路面凍結の恐れがある。

６ 問い合わせ

御船町社会福祉協議会　☎０９６－２８２－０７８５

No. 11

仮設住宅のコミュニティを支える

1　活動の概要

活動名	馬水東道（まみずひがしみち）仮設住宅　お誕生日交流会
対象地域	益城町　馬水東道仮設住宅
運営主体	馬水東道仮設住宅自治会
活動の種類	①集いの場　②見守り活動　③防犯・防災活動 ④困りごと・生活相談　⑤移動・送迎支援 ⑥地域のイベント　⑦その他（　　）
活動日時	毎月最終土曜日
活動場所	馬水東道仮設住宅みんなの家
参加費	無料（活動内容によって一部徴収）
対象者	馬水東道仮設住宅の入居者、元入居者
協力団体	ＮＰＯ法人ＢＵＬＢＹ（バルビー）（町から自治会支援事業を受託） その他地域活動を実施している団体・個人
運営財源	自治会費、団体の活動費（町からの助成あり）
備考	

２ 活動を始めたきっかけ

平成２８年８月から馬水東道（まみずひがしみち）仮設住宅の入居が開始。同年冬頃からＢＵＬＢＹ（バルビー）が、益城町内の仮設住宅でサロン活動（看板づくり等）を実施。平成２９年夏、同仮設の自治会から「夏祭りをしたい。」とバルビーに相談があり、他ボランティア団体と協力して夏祭りを開催。その後も、自治会からバルビーへ定期的に協力の依頼があっていた。

平成３０年４月、町より仮設住宅の自治会支援事業の委託を実施するにあたり、同仮設の自治会よりバルビーにお願いしたいと依頼があった。どのような活動を行っていくのか話し合いを実施し、お誕生日交流会として毎月開催していくことになった。

３ 活動の内容

・お誕生日交流会（地域住民交流会）

仮設住民間の交流を目的に、毎月最終土曜日に開催し、参加者みんなでお祝いをしている。

当日は、参加者で食事作りも実施。

・季節行事…花見、夏祭り、バーベキュー

・除草作業やみんなの家の清掃

４ 特徴やポイント

・馬水東道仮設住宅から退去された方の参加も可能。

・食材は、自治会とバルビーで、分担して持ち寄り、準備を行っている。

５ 課題（現在と今後）

・仮設住宅からの退去により、これまで築いた関係がバラバラになる。

・住民が主体的に取り組むことで、新天地でのつながりづくりのヒントになるようにと考えている。

６ 問い合わせ

ＮＰＯ法人ＢＵＬＢＹ　✉office@bulby.net

No. 12

地域の安全・安心を地域で守る

1　活動の概要

活動名	龍野地区防犯パトロール隊（ドラ・パト隊）
対象地域	甲佐町龍野地区
運営主体	龍野地区社会福祉協議会
活動の種類	①集いの場　②見守り活動　③防犯・防災活動 ④困りごと・生活相談　⑤移動・送迎支援 ⑥地域のイベント　⑦その他（　　）
活動日時	日常生活の中での見守りパトロール 「できる人が、できる時に、できる方法で」
活動場所	龍野校区内
参加費	無料
対象者	ドラ・パト隊メンバーは、現在約２３０名
協力団体	行政、御船警察署、甲佐町社会福祉協議会 龍野小・中学校、自治会　など
運営財源	校区社協の活動費（行政・町社協から） 寄付金、助成金の申請（町社協の協力により申請）
備考	活動保険として、町の全国町村会総合賠償補償保険に加入（自己負担は無いが、活動報告が必須）

２ 活動を始めたきっかけ

平成１９年に敬老会（地区社協で開催）後の反省会の際に、地区内の安全・安心のための防犯活動が必要となっているとの意見があった。そのため、防犯パトロール隊を組織し、地域の方々に協力を呼びかけ、平成２０年５月２４日に発足。

地域の方々へドラ・パト隊メンバーの募集をしたところ、約２００名が協力。最大時には、メンバーも３００名を超えていた。

帽子やベスト、のぼり旗等は、御船警察署から提供いただいた。

３ 活動の内容

・ドラ・パト隊による地域のパトロール
・毎月１日の「一斉行動の日」‥１回/１日、自分なりのパトロールを！
・小中学校の登下校時の見守り
・こども１１０番の家（看板やのぼり旗の設置：１４件）
・青パトの家（地域の巡回：７件）
・仮設住宅の巡回訪問　など

４ 特徴やポイント

・日常生活（買い物・畑仕事・散歩など）の中で、防犯・見守り活動を実施。
・少人数での組織化より、大人数でのゆるいつながり。
・小中学校の行事予定を学校と共有し、予定表の配布や防災無線を活用して地域に周知している。

５ 課題（現在と今後）

・活動財源（装備品等の購入）の確保
・地域情報の更新
・継続・退会などメンバーの見直し

６ 問い合わせ

甲佐町社会福祉協議会　☎０９６－２３４－１１９２

No. 13

生涯現役で、安心して過ごせる地域づくり

1　活動の概要

活動名	地域でつくる　明日への支え合い、見守り活動
対象地域	山都町猿渡　瀬峰区・北川内区
運営主体	延寿会（瀬峰区・北川内区老人会）
活動の種類	①集いの場　②見守り活動　③防犯・防災活動 ④困りごと・生活相談　⑤移動・送迎支援 ⑥地域のイベント　⑦その他（　　）
活動日時	集まる場を月１回開催
活動場所	瀬峰公民館、北川内公民館
参加費	飲食等のイベント時には、一部徴収
対象者	延寿会の会員
協力団体	山都町社会福祉協議会、上益城地域振興局
運営財源	参加費 県の地域福祉総合支援事業（地域の縁がわ）補助金
備考	

２ 活動を始めたきっかけ

延寿会（瀬峰区と北川内区合同の老人会）は、「生涯現役で安心して過ごせる地域づくり」を目指して取り組んでおり、現在の会員は４８名（瀬峰１８名、北河内３０名）。７０歳代後半～８０歳代が多い。

地域の高齢化が進み、単身世帯や高齢夫婦世帯が増加する中で、住民同士が支えていくためには、より身近な人たちと出会う、つながる機会が必要と感じ、令和元年度から地域の縁がわ事業に取り組んでいる。

３ 活動の内容

・茶話会…敬老会、カラオケ、ボーリング、忘年会　など
・ふれあい交流会…七夕祭り、しめ縄作りなどの季節行事
・つぶやき拾い…カードを利用した困りごと等の意見交換（ワークショップ）
・避難訓練…避難所（公民館）での宿泊体験
・講演会…専門家を招き、日頃の困りごとについての講話などを開催
・令和２年度に向けての活動予定
　①地域の歴史を振り返り、語り継ぐ活動
　②散歩しながら健康づくりや見守りを行うグループの組織化

４ 特徴やポイント

・参加者が楽しく、生きがいを持って交流することを目的に活動を実施。
・つぶやき拾いを通じ、地域住民の困りごとや心配ごと等について情報共有を行っている。

５ 課題（現在と今後）

・地域住民の高齢化、単身世帯の増加や核家族化
・商店の閉鎖に伴う買い物支援や移動手段の確保
・若い世代の参加協力（人材の確保と育成）
・延寿会活動の推進（新たな活動にも取り組んでいく姿勢）

６ 問い合わせ

山都町社会福祉協議会　☎０９６７－７２－３２１１